

IBM DB2 Information Integrator



Classic Federation リリース情報

バージョン 8.2

IBM DB2 Information Integrator



Classic Federation リリース情報

バージョン 8.2

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、7ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM DB2 Information Integrator
Release Notes for Classic Federation
Version 8.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

リリース情報について	v	エンタープライズ・サーバー	4
DB2 Information Integrator の Web 上のサポート	v	製品のアップデート	5
トラブルシューティング	1	CA-IDMS: DBKEY へのマッピング	5
製品の修正点	3	32 ビット Linux の CLI クライアント	5
Adabas データ・ソース	3	IMS: HALDB サポート	5
CLI、JDBC、および ODBC ドライバー	3	WLM Exit	5
CPU Governor 出口	4	特記事項	7
Data Mapper	4	商標	9
データ・サーバー	4		

リリース情報について

リリース情報には、IBM® DB2® Information Integrator Classic Federation for z/OS® バージョン 8.2 に関する最新情報が含まれています。

リリース情報は 2 つの部分で構成されています。

- 最初の部分は、Classic Federation で問題が発生した場合に役に立つ診断情報について説明しています。
- 次の部分は、バージョン 8.2 PTF に含まれる製品のフィックスおよび機能拡張について説明しています。

DB2 Information Integrator の Web 上のサポート

DB2 Information Integrator と最新のサポート情報について詳しくは、DB2 Information Integrator サポート Web ページ www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html を参照してください。

トラブルシューティング

問題が発生し、サポートを依頼する場合は、以下の診断情報の一部またはすべてを提出できるよう準備しておいてください。

サーバー・ログに取り込まれたすべての該当構成ファイル

例えば、以下に関するものです。

- データ・サーバー
- 相関サーバー
- 照会プロセッサ
- ユーザー・オーバーライド

MTO DISPLAY、CONFIG コマンドを使用して、データ・サーバーのログ内のアクティブな構成メンバーの内容を表示することができます。このコマンドの使用についての情報は、「*IBM DB2 Information Integrator Administration Guide and Reference for Classic Federation and Classic Event Publishing*」を参照してください。

データ・サーバー JCL で参照される SCACCONF データ・セットの構成ファイルを送ることもできます。

場合によっては提出していただく必要があるその他の情報

- データ・サーバーのすべての出力
- 該当するすべてのサンプル集、照会、および USE 文法
- トレース・ファイル

詳細な診断のため、次の情報の提出が必要になる場合があります。

- Adabas データ・ソースを使用している場合: ADAREP および DDL
- CA-DATACOM を使用している場合、Multi-User Facility の出力および DBUTILITY レポート
- CA-IDMS データ・ソースを使用している場合: スキーマ・レポートおよびサブスキーマ・レポート
- IMS™ データ・ソースを使用している場合: IMS トランザクション・ログ
- VSAM データ・ソースを使用している場合: CICS® ログ

トレースについては、「*DB2 Information Integrator Classic Federation および Event Publishing の管理ガイドおよび解説書*」のサーバー・ロギングに関するセクションを参照してください。

- システム・ダンプ

異常終了が発生した場合、完全なシステム・ダンプは自動的に生成されません。異常終了を再現できる場合は、適切な SYSMDUMP DD を追加してダンプを生成できます。SYSMDUMP が要求されると、ダンプは、SYSMDUMP DD で定義されたデータ・セットに送られます。

異常終了が発生し、データ・サーバーの JCL に SYSMDUMP DD ステートメントがない場合、データ・サーバーの JES メッセージ・ログおよびシステム・メッセージ・ログを検査して、システム・ダンプが生成されたかどうかを判別してください。

- キューからのフォーマット済みメッセージ。ep_extras.zip ファイルには、メッセージ・キューを読み取るプログラムおよびキュー定義が含まれています。

z/OS における異常終了の問題

エラー時の PSW と REGS、および SAS/C 関数呼び出しトレース・スタックを確認します。PSW および REGS は、データ・サーバー出力の JESMSG LG および JESYSMSG で確認できます。SAS/C 関数呼び出しトレース・スタックは、データ・サーバー出力 SYSTERM、または SYSnnnnn などのシステム生成 DD で確認できます。

その問題が異常終了の場合は、エラー発生時に、呼び出しスタックからのトレースバック情報が標準出力に送信されます。バッチ実行の場合、トレースバック情報はジョブ・ログに送信されます。

メタデータ・ユーティリティーの問題

問題のあった実行からの SYSOUT を用意してください。

製品の修正点

次のセクションは、このバージョン 8.2 PTF に含まれる製品のフィックスおよび機能拡張について説明しています。

Adabas データ・ソース

Adabas 7.4.2 以後のバージョンの DB2 Information Integrator Classic Edition は、再入可能な ADALNK モジュールを正しく検出せず、それを使用する機能が働きませんでした。

CLI、JDBC、および ODBC ドライバー

- DB2 Information Integrator アプリケーションが ODBC ラッパーを使用して DB2 Information Integrator Classic Federation データ・サーバーに接続するとき、CONNECT RESET コマンドによって db2fmp プロセスが終了しました。CONNECT RESET コマンドが正しく処理されなかったために、切断要求が発生しました。
- ODBC を介してデータ・サーバーに接続する WebSphere® Business Integrator メッセージ・ブローカーの場合、「select * from cxa.stocks where stock_symbol = (?);」のタイプの SQL ステートメントの SQLDescribeParam が機能しませんでした。括弧が原因で、誤ったパラメーターのメタデータが戻されました。
- DB2 Information Integrator Classic Federation は、次の理由により、UNIX® プラットフォームの DB2 Information Integrator と正常に統合しませんでした。
 - MP SpinLock 呼び出し (これは、AIX® 4.3.3 で変更された) が正しく処理されなかった。
 - ODBC ドライバーにメモリー・リークがあった。
 - SQLTables 呼び出しがパラメーターとしてシステム・テーブルで作成されたとき、ニックネームの作成ができなかった。生成された SQL が 0 行を戻した。
- ODBC クライアント・アプリケーションでは、z/OS 用 DB2 で FLOAT(10) である DATA_BIN8 列に SQL_C_FLOAT および SQL_REAL を使用してパラメーターをバインドすると、機能しませんでした。入力値に関係なく値 0 がパラメーターにバインドされます。
- WebSphere Business Integrator メッセージ・ブローカーからステートメントが再実行されたとき、ODBC Driver Manager が「Function Out Of Sequence」エラーを戻しました。
- HP-UX UNIX の CLI クライアントでの調整がずれたデータによって、SIGBUS エラーが発生しました。
- ODBC クライアント・アプリケーションで、混合モード (DBCS および非 DBCS 文字) での挿入が失敗しました。
- DB2 Information Integrator Classic Federation を介して Adabas データにアクセスするために、AIX から 2 つの同時接続が確立されるとき、複数接続できるクライアント・アプリケーションがハングする可能性があります。

CPU Governor 出口

構成パラメーター INTERLEAVE INTERVAL の通常の設定では、CPU Governor 出口で SOC1 が異常終了する可能性があります。

Data Mapper

スウェーデン語の文字をデータ・マッパーの「注釈 (Remarks)」フィールドに入力すると、スウェーデン語の文字ではなく、ブランクまたは日本語の文字が表示されました。

データ・サーバー

- 照会に、10 進定数が +/-999,999,999,999,999 を超える DEC 列が含まれる場合、DB2 Information Integrator Classic Federation が表スキャンを実行し、これによりクライアント接続がタイムアウトする可能性があります。索引付けされた DEC 列では、述部が COLUMN = VALUE の形式で、COLUMN が 10 進数で定義され、かつ VALUE が +/-72,057,594,037,927,936 より小か等しい 10 進数である場合、DB2 Information Integrator Classic Federation は使用可能なインデックスを使用するようになりました。
- コメントにピリオドが含まれる CA-IDMS スキーマを処理できませんでした。
- CONCAT(expr1, expr2) が照会でサポートされませんでした。
- 次の例のような、照会の関数の前後の中括弧および fn 修飾子の書き込みがサポートされるようになりました。{fn(CONCAT(expr1,expr2))}
- DISPLAY,USERS コマンドを実行したとき、STMTS 列が正しいデータを表示しませんでした。
- データ・サーバーをシャットダウンしたとき、次のメッセージが誤って表示されました。「CAC00131E - DB2 SUBSYSTEM TERMINATING.」
- Adabas データ・ソースから戻された結果セットで、グレゴリオ形式の日付が正しく表示されませんでした。

エンタープライズ・サーバー

1 つ以上のデータ・サーバーが大規模の照会を処理しているとき、クライアントがエンタープライズ・サーバーに接続できませんでした。

製品のアップデート

CA-IDMS: DBKEY へのマッピング

CA-IDMS 表のマッピングの際の、レコードの DBKEY への列のマッピングが、PATH に含まれるレコードに対してサポートされるようになりました。USE GRAMMAR で次の列マッピングを使用します。

```
Column-name SOURCE DESCRIPTION ENTRY record-name _DBKEY_ USE AS INTEGER
```

新規の列を他の列のように参照できます。これには、次の制限があります。

- DBKEY 列は INSERT ステートメントでは無視されます。
- DBKEY 列は UPDATE ステートメントの SET 文節では参照されません。
- DBKEY を使用して照会を最適化できません。そのため、WHERE 文節で参照される使用可能な CALC キーまたは INDEX がない場合、表スキャンが発生する可能性があります。
- DBKEY 列を含む表への挿入では、DBKEY 列を含まない列リストを準備する必要があります。

32 ビット Linux の CLI クライアント

CLI クライアントは、32 ビット Linux[®] プラットフォームをサポートするようになりました。サポートされるディストリビューションは、Red Hat Enterprise Linux 3 および SuSE LINUX Enterprise Server 9 (Service Pack 2) です。

クライアントのダウンロードおよびインストールの方法は以下のとおりです。

1. FTP サイト `ftp://cxacust:class1cfed@service2.boulder.ibm.com/` に匿名でログオンする。
2. `ga/v820/clients` ディレクトリーからファイル `cac821x.tar` をダウンロードする。
3. ファイルをダウンロードしたディレクトリーで、ファイルの内容を `untar` する。
4. `root` として次のコマンドを実行する。 `./cac821x`

IMS: HALDB サポート

IMS PHDAM および PHIDAM ハイ・アベイラビリティ・ラージ・データベース (HALDB) がデータ・ソースとしてサポートされるようになりました。

WLM Exit

SQL ステートメントが実行を完了したときに、常にエンクレーブのリセットを実行するように、WLM Exit が変更されました。この新規の振る舞いによって、WLM Exit が「*IBM DB2 Information Integrator Administration Guide and Reference for Classic Federation and Classic Event Publishing*」に説明されているように振る舞います。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。サンプル・プログラム. © Copyright IBM Corporation Corp 2001._年を入れる_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM
AIX
CICS
COBOL/370
DB2DB2 Universal Database
IMS
Language Environment
MVS
MVS/ESA
VTAM
WebSphere
z/OS

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan